

---

# A.O.G -Agent Of God- ~ 真剣で代行者に恋しなさい！~

反省猫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A · O · G - Agent Of God - 真剣で代行者  
に恋しなさい！～

### 【Zコード】

N9214Y

### 【作者名】

反省猫

### 【あらすじ】

初めてましての方は初めまして、知っている方はどうも反省猫です。色々思う事もあり、新たに書き直し+新しい話を書き足し、題名も少し変えました。という事で新しくなったA · O · Gをよろしくおねがいします。

この作品は真剣で恋しなさい！の二次創作小説です。

オリ主最強・チート・バグ・原作ブレイク・キャラ崩壊苦手な方にはおすすめできません。

それでもこゝよとこゝう方は、暇つぶしだらうね～

## 第1話『神の代行者〈Hージュント〉』（前書き）

この作品は真剣で私に恋しなさい!の一次創作小説です。  
オリ主最強・チート・バグ・原作ブレイク・キャラ崩壊苦手な方には  
おすすめできません。

それでもいじょといふ方は、暇つぶしにどうぞ

## 第1話『神の代行者×Hージュント』

なんでこうなった……

俺は今何もない真っ白な空間にいる。

そして目の前には俺と同じくらいの金色の髪に髪に青い瞳の美しい女性がじけりに微笑んでいる。

さかのぼる事30分前……

（回想）

俺の名前は、てんじゅう天錠あきり暁

アニメとかゲームなどを愛するこわゆるオタクと言われる大学生だ。

前々からほしかったゲームを買って意氣揚々と自宅に帰る途中、

少年達が集まって何かをやっていた。

俺は、少年達が集まっている隙間から覗くと少年達の中央に

服を着たつざきのような変な生き物が少年達に虐められていた。

暁

「なんだ？ あの生き物は？」

俺は不思議に思いながらもなぜか見過ぎしない感じがして、

少年達に渡し、その不思議な生き物を助けた。

少年達に渡し、その不思議な生き物を助けた。

良く見ると左前脚を怪我していたので、とりあえず

家に連れて帰り、怪我の手当てをした。

すると驚くべき事が起きた。

？？

「いやあ～、助かりました～ 貴方は私の命の恩人です」

その助けたウサギもどきがしゃべり始めたのだ。

暁

「つま～ しゃ、しゃべった！」

俺は、突然の事で思わず腰を抜かした。

？？

「あ、申し遅れました！ 私、神の従者をしております稻葉と申します」

そう言つて稻葉と名乗ったウサギもどきが丁寧にお辞儀をした。

俺もすぐに姿勢を正し

暁

「あ、これは」「丁寧に、俺の名前は、天錠 暁です。よろしく

そう言つてお辞儀を返した。

今、神の従者とか言つたか？ 暁は田の前の自称神の従者の稻葉をじいーと見ている。

稻葉

「それにしても、貴方は最近では珍しい奇特な方ですね。

大抵の人はそのまま素通りか、見ても見ぬ振りをしていましたのに

暁

「いや、俺はただ見過ごせなかっただけですよ

暁は謙遜したが、本当は彼の過去にその理由があった。

彼は大切な人を目の前で亡くしたのだ。

稻葉

「御謙遜を。あなたは私を助け手当までしてくだされました。本当に感謝いたします」

そう言つて再度頭を下げた。

暁

「いや、当たり前の事ですから、頭を上げてください」

そういうと稻葉はじいーと品定めする様に暁を見ている。

暁

「な、何か？」

暁はその行為にたじろいだ。

稻葉

「ふむ、あなたならわが主に会わせてもいいかもしません」

今、神と言つたか？ 神…… 神……

暁

「えええええ！…… マジですか？」

稻葉

「ふふふう、はい！ では行きますよ～」

暁

「い、行くって、どこへ？」

稻葉

「いわゆる天界といつてこりうですよ、では…」

暁

「ちよ、ちよっと…！ まだ心の準備が…」

稻葉

「いえ、善は急げと申しますから

暁

「こせこせーーー！」

稻葉

「ええい、往生際の悪い！ 行きますー！」

暁

「うわあ～ーー！」

稻葉に右肩をタッチされた瞬間、一人と一匹はどこかへ転移した。

暁

「うんん……」  
「は……」  
「ビ」「だ？」

俺はびくびくと氣絶していたらしく、目が覚める直つ白い何もない空間に横たわっていた。

？？

「目は覚ましたか？」

突然誰からかそう訊ねられ、俺はビクツとなり、声のした方向に目を向けた。

ちょうど自分の前方に一人の美しい女性が立っていた。

その傍らに稻葉も立っている。

暁

「貴方がもしや……」

？？

「はい、申し遅れました第1級多世界管理者ルカ＝ツヴァイト＝ルミナスと申します。

いわゆる貴方達の世界の言葉で書いつのならば【神】です

そう言って微笑んだ。

……つと言った感じで回想終了。

暁

「貴方が神で名前がルカ＝ツヴァ……」

ルカ

「あ、ルカでいいですよ。名前結構長いですし……」

暁

「じゃ、ルカさん。俺の名前は……」

ルカ

「天錠 暁さんですよね？（ニコッ）知っていますよ」

暁

「（赤面）／／／」

暁は、女性の免疫がない事はないが、どちらかと言えば苦手だ。

ルカ

「稻葉を助けて頂きありがとうございました」

そう言って暁に頭を下げた。

暁

「あ、当たり前の事をしただけですよ。お気になさらず（赤面）／＼

ルカは、じいーと上目使いで暁を見た。

暁

「う……な、何でしちつ？」

ルカ

「うふ、合格！」

暁

「……へ？」

暁は間抜けな声を上げた。

ルカ

「暁さん、单刀直入に申します。私の代わりに他のセカイを廻つて  
いただけませんか？」

暁

「はあ～？ セカイを廻るう？」

ルカ

「そのままの意味です。本来なら私が行かなければならないのですが、

今ここを離れるわけには行かないでの、代わりに行つてくれる人を探していたんですよ~」

そう言って、ニッコリ微笑む。

暁

「で、でも、俺、何の能力もない普通のしがない大学生ですよ?」

ルカ

「それなら心配しなくても大丈夫ですよ。私が貴方に必要な能力を与えますよ」

それを聞いて暁は一瞬考えた。

能力がもらえる?

暁

「……その能力というのは、人を救えますか?」

その問いに一瞬キヨトンとなつたルカはすぐ笑みを浮かべ、

ルカ

「はい、救えますよ」

暁は過去の出来事を思い出していた。

暁は、大規模なテロで両親を失つた。

その時思つた俺にもうと力があれば大切な人を助けられたかもしけ  
ないつと

暁は、真剣な表情になり、

暁

「そのお話を受けします」

ルカ

「それでは今から貴方は、私の代行者です」

そして暁は神の代行者になつた。

それからルカにこの依頼の詳しい内容を聞いた。

簡単に言うとこうだ。

俺は、他のセカイをただ廻るのではなく、

そのセカイで発生したイレギュラーを取り除く事。

そして、壊れた部分があれば修正する事。

この2つが大きな目的だ。

次にそのセカイで俺には役が与えられる。

その役をやりながらセカイでの任務を遂行する事になるのだ。

またその役の許容範囲なら何をしてもかまわないらしい。

ただし、人を殺すなどの事は禁止だ。

ちなみにそのセカイで協力者をいくら増やしてもOKらしい。

それを理解した上で頷いた。

ルカ

「次に貴方に授ける能力ですが、なんか希望がありますか?」

暁

「そうだな」 身体能力上昇にして修業とかすればそのまま反映されて強くなるかな。となる成長率限界突破。  
それと初期の能力は、これから行くセカイの最強と同質な感じで。後は、ありとあらゆる知識と技術」

ルカ

「ふむふむ、他には?」

暁

「毒とかの状態変化無効でそれと不死にしてもらえますか?  
後は、戦闘能力向上。魔力と氣両方無限状態で  
そしてこれが一番のお願いです。  
アニメやゲームなどの必殺技や魔法とか使えるようにして  
下さい!」

ルカ

「ふむふむ、それじゃ希望したものと私からのプレゼントで  
創造の力と貴方の魅力を最大値にそれとこれはおまけです」

そういうつてルカは目を瞑り、何やら呟いている。

「我わが……力ちから……かの者ものに……与よえん!!」

ルカがそう言つた瞬間、暁の全身が光り輝く

暁

「ツ……！」

暁は、光が収まるまで目を瞑つた。

そして光が収るとルカが口を開いた。

ルカ

「ふう~、今ので能力を付加しました。その証に」

そつ言うとルカが指を鳴らすと暁の目の前に大きな姿見が出現した。

暁

「証？ これって！？」

暁は驚いた。顔は元々F-?のセイロス似のイケメンだったので  
変わつてないが、

髪と瞳の色が変化していた。

髪は金髪、瞳の色は赤になつていた。

ルカ

「ふふ、それが代行者の証です」

ルカは微笑みながらそう言つた。

暁

「これが代行者の証……」

暁がそうつぶやくと

「では、早速ですがあるセカイに言つていただきます」

その言葉に暁は、ルカに視線を向ける。

暁

「どのセカイにいくんですか？」

ルカ

「あなたに行つてもらつセカイは、【真剣で私に恋しなさい】と似たセカイです」

暁

「へ？ まじーに似たセカイって？」

ルカ

「はい、どうやらそのセカイに、イレギュラーが発生しているようですね」

暁

「ふむ、わかりました。行きます！」

暁は氣合いの入った声でそう言った。

ルカ

「ふふふ、ではゲート開きます」

ルカは、また目を瞑り何か呪文を唱えた。すると

暁の目の前に魔法陣が出現する。

暁

「これがゲート……では、行つてきます」

ルカ

「はい、いってらっしゃい」

ルカが笑顔で送り出してくれた。

暁は、ゲートの中に入りそして消えていった。

暁が行つた後、

稻葉

「彼、連れてきた私が言うのもなんですが大丈夫ですかね？」

その言葉にルカは笑みを浮かべ、

ルカ

「きっと大丈夫よ。だつて彼は……」

その言葉に稻葉は驚くのだった。

to

be continued.....

## 第1話『神の代行者』（Hージュント）（後書き）

暁「おい、駄作者……」

作者「な、なんでしょう？」

暁「いきなり全部書き直すなー！」

作者「うー、うめんなわー」（トロトロ）

暁「泣いてすむと思つてるのか、ああん（怒）  
いままで読んで下さった方々に申し訳たたねえだらうがー。」

作者「おっしゃる通りですー（——）＼——／——」

ルカ「まあまあ、暁ちゃんそこまでにしなさいな。

あいつと何か理由があるんでしょー？」

作者「ルカさん（涙）」

ルカ「キモいから近づかないでもらえます（笑顔）」

作者「ひ、ひどー」

暁「理由ねえー、何あるのか？」

作者「ありますよ～色々と」

ルカ「色々とは？」

作者「まず、このPrologueだけ

セカイを廻る理由が詳しく書いてなかつたり、

他にもルカの性格とかね。

自分で書いて違和感がw」

ルカ「それで私の性格と言葉使いが前と変わっているのですか」

暁「そういえば、そうだよな」

作者「それ以外にもいろいろあるので、修正するより  
一から書き直したほうが早いと思つたので、  
今回のような事になつたのですよ」

暁・ルカ「なるほど~」

作者「それとPrologueでまだ付け加えたい話もあるのも理由です」

暁・ルカ「ふむ、話は分かつた。とりあえずまずは  
読んでいただいた人達に謝罪をしなさい」

作者「はい……、今まで読んでくださいました方々

申し訳ありませんでした。AOGは前よりももつとい  
作品になるようにこれからも精進させていただきます」

作者「残りの話に着いても明日の夜もしくは明後日までは  
書き上げたいと思います」

作者「これからも新しくなるAOGをよろしくお願ひします

作者「では、次回 Prologue 第2話  
お会いしましょうー」  
曉・ルカ「では次回までさよなら～」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9214y/>

---

A.O.G -Agent Of God- ~真剣で代行者に恋しなさい!~

2011年11月27日16時47分発行